

一人ひとりに
寄り添う政治を。そ世
だ田
ち谷

世田谷区議会議員

無所属

世田谷から未来を変える。

特定の団体や企業のためではなく、しがらみのない立場で、本当に困っている人の声を受け止められる”一人ひとりに寄り添う政治”の実現を目指して「つるみけんご」は、活動を続けます。

つるみけんご
鶴見健悟プロフィール

- 1986年(昭和61年) 10月12日生まれ 34才
 - 世田谷区立駒沢保育園、駒沢小学校、駒沢中学校、東京農業大学第一高等学校、東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科卒
 - JA東京中央会 元職員
 - 衆議院議員 長妻昭 元秘書
 - 公務員試験専門 喜治塾 元講師
 - 世田谷区議会議員に初当選(得票数4,491票)
- 企画総務常任委員会、災害・防犯・オウム問題対策等特別委員会、消防団運営委員会に所属



つるみけんごは
「認知症サポーター」です！

通信
vol.13

このたび、「つるみけんご通信」をお手に取って頂き、誠にありがとうございます。

本通信では、令和3年2月～3月に行われた「世田谷区議会令和3年第1回定例会」「令和3年度予算特別委員会」における質疑の内容をまとめました。お読みいただけましたら、幸いに存じます。



つるみけんごの

会議の録画映像を
ご覧いただけます。

**発熱や咳・痰、全身のだるさなどの症状がある方は、
まずは「かかりつけ医」に電話でご相談ください。**

「かかりつけ医」がない、相談する医療機関に迷う等の場合

世田谷区発熱相談センター TEL.03-5432-2910 (平日8:30～17:15)

東京都発熱相談センター TEL.03-5320-4592 (24時間対応)

症状はないが不安がある等の一般的な新型コロナウイルスに関するご相談

世田谷区新型コロナウイルス相談窓口 TEL.03-5432-2111

「心の相談」はこちらから 心の悩みを抱える方が増えています。

1人で悩まず、お気軽に世田谷区までご相談ください。

新型コロナウイルス ワクチン 接種に関するお問い合わせは

世田谷区新型コロナワクチンコール TEL.0570-200-471

最新情報は、世田谷区コロナワクチン(住民接種担当部)の公式Twitterアカウント、または区のHPからご確認ください。

新型コロナウイルス感染症

命を守るための交通安全対策

世田谷区内での交通人身事故の発生件数は、令和2年1,522件であり、前年の令和元年1,940件から、およそ21.5%減少しておりますが、一方で、交通事故による死者数は令和元年の6名から、令和2年は11名と倍近くに増加しております。さらに、令和3年は1月・2月のたった2か月の間に、すでに4名の方が交通事故により命を落とされています。

交通事故による死者数が大幅に増加しているにもかかわらず、区は令和3年度予算案の作成にあたり、小学校や区民センター広場などで行われる「参加型交通安全教室」について、コロナ禍による実施要望の減少を理由に、実施回数を減らすことを決定しました。

コロナ禍で人が集まることができない状況を鑑みて、実施回数を減らさざるを得ないことは致し方ないとしても、別の手法を用いて、なお一層、事故防止のための意識啓発を強化すべきであると主張しました。



つるみけんごコメント

これに対し、区からは「地域の自発的な交通安全の取り組みを促進するとともに、学校等とも連携を図りながら、様々な形で交通安全啓発を積み重ねていく」と答弁がありました。

ある新聞では、コロナ禍での交通安全教室といった街頭活動の自粛なども死亡事故の増加につながったとの指摘がなされています。平成29年から令和元年に、区内で実施された参加型交通安全教室の半数以上は、小・中学校で行われており、子ども達の交通安全のための講座を削減する以上、子どもの命と安全を守るためにあらゆる創意工夫を尽くすべきと考えます。

今回の質疑では、区内の児童・生徒に1人1台配布されたタブレット端末を活用し、事故防止・命を守るという観点から、教育委員会としても積極的、かつ真剣に取り組んで頂くよう要望しました。

今後も引き続き、命を守るための交通安全対策をより一層、強化するよう提案してまいります。

裏面のテーマ

窓口でのたらいまわし問題

高齢者の居場所・通いの場の創出

認知症とともに生きる地域社会へ

皆様の“声”をお聞かせください！

お電話:03-6322-0575

メール:kengo@k-tsurumi.net

窓口でのたらいまわし問題



2003年以降18年にわたって、世田谷区民意識調査では、「窓口の印象が悪かった」と回答された区民の方のうち、毎年約2割から3割の方が「たらいまわしにされた」と答えておられます。この「窓口でのたらいまわし問題」は、本来あってはならないことであり、早急に改善すべき重要な課題です。

区は現在、デジタル化の推進という大きな転換期を迎えています。これを機に、相談から手続きを含め、区民の皆様の困りごとが一か所で解決する仕組みを構築し、区として「たらいまわしゼロ」を実現すべきであると提案いたしました。



つるみけんごコメント

区は、「たらいまわしは、あってはならないこと」としながらも、解決に向けて取り組むというような明確な答弁はありませんでした。長年放置されてきた問題を解決するために、デジタル技術を活用し、本来目指すべき姿を実現していくことこそが、デジタル化の意義であるはずで。

引き続き、窓口でのたらいまわし問題をはじめ、区民の皆様のご意見等をもとに行政課題の解決に取り組んでまいります。

高齢者の居場所・通いの場の創出

これまでも、区に対し、高齢者の居場所づくりにおいては、お一人で活動したい・お一人で過ごしたいという方々の思いも尊重し、その方々の居場所や通いの場を創出していくという視点が必要であるということ度を度々申し上げてまいりました。これに対し、令和3年1月の定例会において、区より「身近な場所で『ゆっくり過ごしたい方の居場所づくり』の観点から課題を把握し、具体的な取組みを進めていく。」との答弁がありました。

にもかかわらず令和3年度予算案では、その具体的な取り組みである、高齢者の方々が「気軽に立ち寄れる居場所の開発」という施策についての予算が盛り込まれておりませんでした。そのことを指摘したうえで、具体的に、区はどのような手法で、「居場所の開発」・「居場所づくりの推進」を実現していくのか、見解を問いました。



つるみけんごコメント

これに対し、「可能な地区があれば令和3年度に試行し、令和4年度の本格的な取組みに結び付けたいと考えている。」との答弁がありました。

高齢者の方々が「気軽に通える・くつろげる居場所」の必要性は、元を辿れば、区が、区内唯一の老人休養ホーム「ふじみ荘」を廃止するという方向性を打ち出したことに端を発します。その「ふじみ荘」は、令和3年3月末をもって閉館することを鑑みれば、区の対応は全体的な観点に欠け、さらに、高齢者の真の要望を受け止める力に欠けると言わざるを得ません。

ふじみ荘利用者の方々へ支援は、丁寧に最後まで誠意を尽くして対応すべきということ、今後はすべての高齢者の方々の生活の実態と要望をきちんと受け止めて、身近な場所での居場所づくりを確実、かつ、スピード感を持って進めていくべきということを、強く申し上げました。

認知症とともに生きる地域社会へ

これまで何度も、「認知症に伴う踏切事故等に係る損害賠償補償制度」の必要性を訴えてまいりました。これに対し、昨年11月の第4回定例会で、区長は、認知症のご本人・ご家族の声を参考に判断させていただきたいと言われました。その翌月に開かれた世田谷区認知症施策評価委員会において、ご本人・ご家族から制度の必要性について言及があったことを受けて、今年2月の第1回定例会にて、区に対し、そのご本人・ご家族の声を、今後の認知症施策の実施計画にどう位置付けるのかと問いました。しかしながら、区は結局、その判断を先送りにし、「引き続き検討する」と答えました。

3月の予算特別委員会では、「引き続き検討する」という答弁を何度も繰り返す区の姿勢を指摘し、改めて、区は何をもってこの制度の必要性を判断できるのかということを問いました。



つるみけんごコメント

区はこの質問に対し、再度「今後もご本人・ご家族からのご意見を伺い検討していく」と答えました。認知症施策評価委員会という公式の場での、ご本人・ご家族の声がないがしろにされることはあってはなりません。

新聞報道によると、日本全国では既に63の自治体が同様の損害賠償補償制度を必要だと判断し、導入されています。そのような中で、いつまでも判断を先延ばしにする区の姿勢は、非常に疑問です。

引き続き、ご本人・ご家族の声を聞き、誰もが安心して暮らし続けられる地域社会の実現を目指し、活動してまいります。



つるみけんご
日々の活動発信中!!

つるみけんごの一日の動き、時事ニュースへのコメント、世田谷の話題など、盛りだくさんの内容です。ぜひフォローをよろしくお願いします。

 [k-tsurumi.net](https://twitter.com/k-tsurumi.net)



つるみけんご

検索